



普及センターだより

茶業後継者の育成

～ 南山城村における茶業後継者育成の取組 ～



南やましろ村茶業塾立ち上げの会合（令和2年2月開催）

相楽郡東部の茶産地では、担い手・後継者の確保育成が喫緊の課題です。

南山城村では、茶業経営の跡継ぎや従業員を必要とする茶生産者が就農希望者の研修を受入れ、地域ぐるみで担い手を育成・定着させる「南やましろ村茶業塾」が令和2年2月に設立されました（写真）。

南やましる村 茶業塾について

令和元年8月に、南山城村の自然に関わる生活がしたいと相談に来たのが谷口義昌さんです。彼は村内の先進農家でプレインターンシップ研修のあと、10月から先進農家で約2ヶ月にわたるインターンシップ研修に進みました。

普及センターではインターンシップ研修後に就農の意向について次のとおり聞き取りを行いました。

「研修を通じて、厳しさや困難さがあることも理解した上で、茶業はイメージが良く、思っていたより奥が深く魅力があると感じており、将来的には独立就農したい。」と、南山城村で茶業経営を志したいという想いが伝わってきました。

そこで、次のとおり、指導・助言を行いました。

①茶業を持続的に行うのに必要な所得の試算。
②南山城村が定める新規就農5年目の目標所得

250万円を満たせる青年等就農計画のシミュレーション。

③茶業の冬期農閑期の現金収入手段（原木椎茸栽培を紹介）。



茶園の被覆棚設置実習(写真左が谷口さん)

令和2年度は、二番茶期以降に、南やましる村茶業塾の茶業指導員8戸の協力のもと、茶園での管理作業、揉み茶やてん茶工場での製茶実習、秋施肥、秋整枝の実習を行いました。

茶業指導員からは、「熱心で、作業も丁寧だった。」

「作業の習得が早く、要領も良く、素質があると感じた。」また、インターンシップを受入れた指導員からは、「昨年より作業の理解が進んでおり、就農に向けた意欲を感じた。」と評価も上々でした。



製茶実習(仕上げ加工)を行う
谷口さん

【現在の状況】

谷口さんは令和元年12月から京都府が新しく立ち上げた「宇治茶実践型学舎」でも1期生として、初年度は茶業研究所で茶園や製茶工場での実習のほか、栽培や製茶、品質評価に関する技術について講義を受けました。

最終年は受け入れ農家を選定して、そこで1年後の独立時に借りる予定の茶園を中心に管理作業を行う予定です。令和3年11月に研修が修了しても、普及センターは、関係機関と協力しながら南山城村の茶業の担い手となるように支援していきます。

京都山城産花菜の生産拡大を目指して

山城地域では、平成28年に京都やましる農業協同組合花菜部会が設立され、令和元年度には総面積8ha、生産量11tの産地となっており、収量の増加と面積の拡大を図っています。

現在花菜部会の生産者の多くは、稲刈り後の田で花菜を栽培していますが、山城地域では稲刈りが10月上旬から始まるため、その後に花菜を植え付けても寒さで大きく育ちにくいことが問題視されています。花菜の収量を増やすためには、水稻よりも作付けが早く終わる作物と組み合わせ、暖かい9月中に花菜を大きく育てる必要がありました。

そこで普及センターでは、緑肥の「ギニアグラス」を水稻の代わりに導入することを提案しました。ギニアグラスを8月に緑肥としてすき込めば、9月から花菜栽培に組み合わせる作物

に適していると考えました。今年度から6名の生産者がギニアグラスを組み合わせた栽培を始めました。生産者からは、以前よりも花菜の生長が順調で、早期収穫ができるようになった、との感想をいただいています。

今後も普及センターでは、JAと連携しながらさらなる花菜の産地化を目指していきます。



直播き栽培の研修会に参加する
花菜部会員

農福連携に取り組む「さんさん山城」～農を通じて地域貢献～

京田辺市のさんさん山城（(社福)京都聴覚言語障害者福祉協会）では、京都府の旧園芸研究所の施設を活用したり、市内の農地を借りて農業に取り組んでいます。

約30人の通所者のうち多くは聴覚に障害のある方で、茶、ナス、エビイモ、トウガラシ類などの栽培や農産加工品づくりの他、採れたて



エビイモの出荷調整作業

野菜を使ったランチを施設内に開設したコミュニティカフェで提供するなど、様々な仕事に従事しています。普及センターは、農家や京田辺市役所、JAなどの関係機関と連携

し、利用者に適した農作物の選定と栽培技術の習得、生産した農産物を加工・販売する6次産業化の活動を支援しています。

また、近年は農家組織や企業と連携し、さんさん山城の職員・利用者の得意分野を活かした新商品の開発や、新しいサービスを提供して地域活性化に貢献する取組を支援しています。

さんさん山城では、これらの活動成果が認められ、2019年3月に日本農林規格（JAS）に制定された「障害者が生産行程に携わった食品」に、2019年11月に第1号と認定されました。さらに、府内の障害者福祉施設では初となるJGAPの認証を2020年8月に取得しました。

コミュニティカフェは開店から3年で30,000人の客が訪れるなど、福祉施設が障害者のためだけの施設ではなく、小さな子連れの親や学生、農家などが交流できる場所として、今では農福連携で障害者の社会参加、地域を元気にする優良モデルになっています。

作業機付きトラクターの公道走行について

一定の条件を満たした場合、ロータリー・トレーラー等の作業機を装着・けん引した状態のトラクターが公道走行できるようになりました！

【一定の条件とは】

- ☑ 灯火器類
- ☑ 作業機の幅（1.7m以下）
- ☑ 運行速度
- ☑ 運転免許 などの確認が必要となります。

詳しくは、農機販売店や近畿運輸局、近畿農政局、(一社)日本農業機械工業会にご確認ください。

[農林水産省の情報HP](#)→



見えない価値を 第三者が証明する

GAP 認証

取得が増えています

商品を見て、形や価格はわかりますが、生産過程での農産物・環境・労働への安全の配慮、働く者の人権保護、責任者の配置や教育訓練の実施等を行う農場経営管理などは店頭では見えません。

これら見えない価値を第三者が審査・確認した客観的証明がGAP認証です。またGAP認証に向けての取組みは、生産性の向上や生産者自身・従業員の経営意識といった経営改善にもつながっています。現在、京都府内の第三者認証（グローバルGAP、アジアGAP、JGAP）は35カ所で、うち山城地域は19カ所（茶

関係：12、青果物7）です。この青果物の7件は令和に入ってから認証で、うち1件はJA京都やましろネギ部会（25戸）が認証取得するなど、多くの野菜農家にもGAPは広がってきています。普及センターでは、認証取得を含めGAPの実践に向け農家支援を行っています。



GAPに取り組む上での課題の聞き取り調査

※GAPとは：Good Agricultural Practice（農業生産工程管理）の略。

茶品評会審査結果

☆第74回 全国茶品評会

<農林水産大臣賞>

てん茶	小山元治さん	(宇治市)
-----	--------	-------

<産地賞>

てん茶	宇治市
-----	-----

☆第38回 京都府茶品評会

<農林水産大臣賞>

かぶせ茶	勝谷健士さん	(宇治田原町)
------	--------	---------

玉露	林昭さん	(京田辺市)
----	------	--------

入賞された皆様おめでとうございます

新規認定「農の匠」

「農の匠」(京都府農山漁村伝承優秀技能)



伝承技能登録された技能の中から、希少価値が高く優秀な技能保持者の方々を京都府が認定しています。

加藤 雅美さん (京田辺市)

伝承技能

『一休納豆の製造』



認定おめでとうございます

令和2年度 京都府農林水産業功労者表彰

稲田宗夫さん	(宇治市)
江口武夫さん	(宇治市)
森下康弘さん	(宇治市)
岡井元弘さん	(城陽市)
白井政彦さん	(城陽市)
川嶋一生さん	(京田辺市)
西村九三男さん	(久御山町)

令和2年度 京都府若手農林漁業者表彰

小山貴裕さん	政代さん	(宇治市)
松阪泰佑さん	啓子さん	(宇治市)
倉田浩平さん	麻美さん	(城陽市)
西川泰徳さん		(京田辺市)
戸田信市さん		(久御山町)
角山大輔さん		(木津川市)
田中洋平さん		(和東町)

受賞おめでとうございます

令和2年度 新規認定京都府農業士

○指導農業士

氏名	市町村名	部門
山田浩文さん	木津川市	野菜、水稻
籠嶋渉さん	和東町	茶

よろしくお祈りします

○青年農業士

氏名	市町村名	部門
青山大芽さん	宇治市	茶
川崎継太さん	久御山町	野菜
村田翔一さん	久御山町	野菜
森口雅至さん	宇治田原町	茶

園芸ハウス台風マニュアルについて

近年、これまでにない記録的な暴風によりパイプハウスの倒壊が頻発しています。京都府では、国の研究機関や防災、気象の専門家を交えた対策チームを設置し、科学的な根拠に基づいた対策マニュアルを作成しています。パイプハウス等の暴風被害の未然防止・軽減のためにご活用ください。
「京都府 園芸ハウス台風対策マニュアル」で検索! してください。

お知らせ センターの取組

※詳細は、普及センターまでお問い合わせください。

◎就農相談会(予約制)

毎月第3木曜日開催

◎令和3年度 就農者基礎講座

令和3年も開催予定

～ 余裕のある作業で、事故を防ぎましょう! ～